

英語

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
英語の特徴や決まりに関する事項を理解したり、実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、その内容を捉えたりする力を付ける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や概要、要点を捉える力を付ける。

生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年 ・基本的な文法事項を理解していない、単語のつづりを覚えていないなどの知識や技能が不足している生徒がいる。ア ・基本的な語彙が不足しているため、ある程度長い文章の概要を理解することが苦手な生徒がいる。イ	・ワークシートのやり取りや単語テストを継続的に実施することで、現状を自覚させ覚える作業を増やしていく。ア ・リスニングや音読テスト、ALT との会話練習やスピーチ原稿作りなどを実施し、読み取る力及び表現力の育成に繋げる。イ	・2学期～3学期 ・2学期～3学期間 各単元終了後	・単語テストを継続的に実施することで、自分なりに工夫して覚えようとする生徒が増えた。ア ・自信をもって音読できる生徒が増えてきた実感はあるが、十分な表現力を身に付けるには至っていない。イ
第2学年 ・日記やメール文などまとまった文章の読解力および基礎的な英作文の力が身に付いていない。ア	・単語・連語の小テストおよび英作文小テストを行う。またワークシートの内容を工夫し、記述する問題を増やす。ア	・2学期～3学期 各単元終了後 ・2学期～3学期	・書く作業を増やしたことで、習った文法や慣用表現を上手に使用し、相手に伝わりやすい文章を書ける生徒が増えた。ア
第3学年 ・身に付けている基本的な文法や単語力に大きな差が見られる。まとまった文章の読解力については特に顕著である。ア ・表現しようとする意欲があり、何とか伝えようと工夫をする生徒が多いが、正確性や柔軟性に欠ける。イ	・授業内で使用するワークシートの、エラー訂正を含めたフィードバックを継続していく。ア ・毎回の授業の帯活動で、自分の考えや意見などを即興的に話す機会を設け取り組ませると同時に、全体での共有を行い、生徒間でのフィードバックを実施する。イ	・通年 ・通年	・個人差は見られるが、全体的に読解力を高めることができた。内容の相互性を確かめる問題の解答率が上がった。ア ・即興性を身に付けさせる活動を取り入れ、生徒は幅広い表現力を身に付けることができた。イ

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化な充実に向けた一人一台端末等のICTの効果的な活用について</p> <p>1年 パフォーマンステストに向けた資料作成・発表。【重点：個別・協働】</p> <p>2年 Google Slides を活用したプレゼンテーション。【重点：協働】</p> <p>3年 パフォーマンステストに向けた資料作成・発表。【重点：個別】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 ワークシートのフィードバックとふり返しシートを活用する。</p> <p>2年 グループ内でお互いの記述（作品）を見合い、改善点を話し合う。</p> <p>3年 ワークシート(個人)のフィードバックと活動のまとめ(全体)の共有。</p>
--	---